

千葉国際芸術祭2025
VI案

千葉国際芸術祭2025 キャッチコピー

ちから、ひらく。

千葉県千葉市。千葉県のまんなかあたりにある県庁所在地。都会と田舎の合間で息する、穏やかな郊外都市。98万人が生活する大きな街。ここで、ひとびとの「活動」を大切にする、新たな芸術祭が始動します。まちなかの思わぬ場所がひらかれ、手をあげた人から活動がはじまり、アーティストも生活者も来訪者もみんなでつくる芸術祭。千葉の地で、知恵をしぼって、ちいさなことでも、力を尽くしてみる。いつもどおりの生活を超えて、ひと・こと・ものに出会うための国際芸術祭にぜひ参加してみませんか。

ロゴマークとキャッチコピーについて

ロゴマークは、「ち」の文字が持つ多様な意味（千葉、地、力、知、宙、血、超、智…等）と、その豊かな表情から着想してデザインしました。しなやかでありながら力強く、なおかつ親しみのある「ち」をベースとし、そこに様々な表情を加えることでVIとして展開していきます。市民参加型芸術祭としての懐の深さや寛容さ、また芸術祭を契機に多様な個性や活動が生まれていく姿を表し、「参加したい」と感じる期待感を持たせています。また、キャッチコピーの「ちから、ひらく」には、芸術祭を通じて、ここ千葉の"地"から「ひと・こと・もの」を拓くこと、多様な「ち」から様々な物事がはじまること、千葉の人々の「ちから」が開花すること等、複数の意味を込めました。マルチミーニング（複数の意味を持つ）フレーズを採用することで、言葉遊びが生み出すユーモラスな印象と、多様なものごとを受け止める寛容さを表現しています。本VIを通し、千葉国際芸術祭の目的の一つである、「多様な主体の尊重と、繋がりの創出」を体現し、市民の創造性が高まり、街とシンクロし、芸術祭が地域社会を変えていくような未来を目指します。

A 案 メインロゴ

親しみやすさと力強さを共存させるロゴマークをイメージしました。

メインロゴをコミュニケーションの基本としながら、

次ページのサブ要素を使って、VI表現として活用していきます。



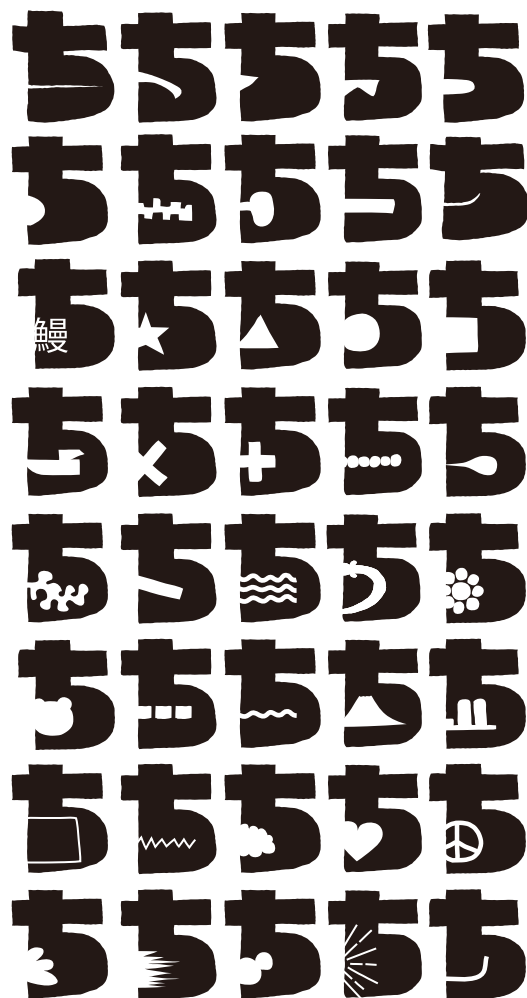
千葉国際芸術祭2025

Chiba City Arts Triennale 2025

ちから、ひらく。

A 案 サブ要素

メインロゴをコミュニケーションの基本としながら、
サブ要素のグラフィックを VI 表現として活用していきます。
例えば各プロジェクトのサインや、マーチャндаイズのデザイン、
その他様々なデザイン要素として活用するイメージです。



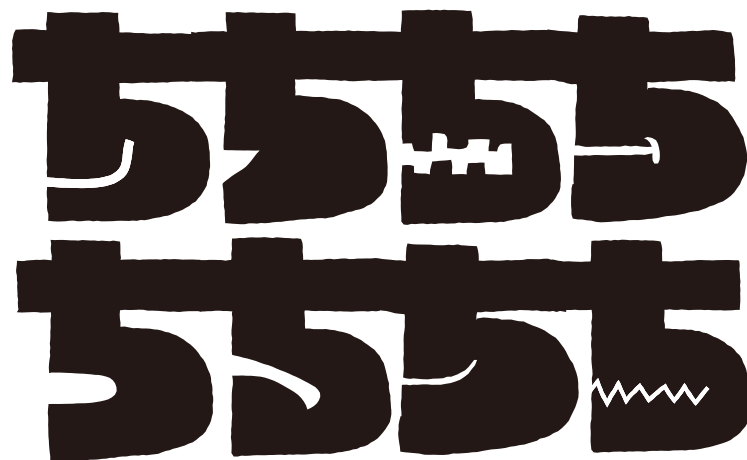
千葉国際芸術祭2025

Chiba City Arts Triennale 2025

ちから、ひらく。

B 案

多様な人が集まり、ちからを合わせ繋がることで、
「ち」からあたらしい物語がはじまっていく



千葉国際芸術祭2025

Chiba City Arts Triennale 2025

ちから、ひらく。

C 案

「ち」があつまって構成されたロゴマーク

「ち」があつまり、千葉の地から「もの・こと・ひと」がひらく様子を
花が開く姿に重ね、シンボルとしました。



千葉国際芸術祭2025

Chiba City Arts Triennale 2025

ちから、ひらく。

Appendix

補足事項

サブ要素の考え方

A 案、B 案は、サブ要素とともに VI を展開する設計で考えています。

「ち」の懷にプロジェクトのイメージや様々な表情を掛け合わせて表現することで、デザイン要素のバリエーションとして活用するイメージです。

「ちから、ひらく」

II

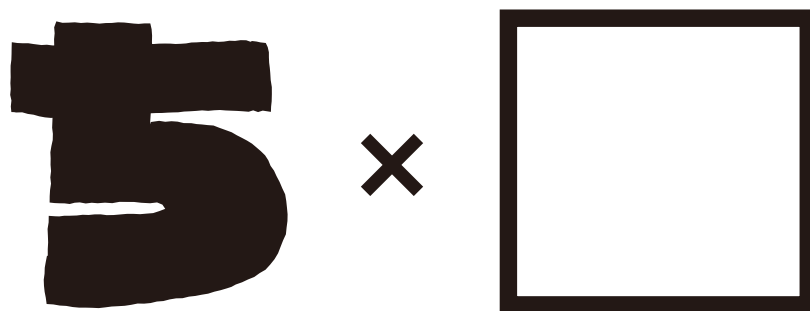
芸術祭を通じて、この地から、「もの・こと・ひと」がひらいていくこと。

また、ここ千葉から「ちから」がひらいていくこと。

「ち」の文字の懷に人の表情やプロジェクトのイメージを掛け合わせることで、多様な「ち」が生まれ、

様々なイメージがひとつのテーマのもと共存する姿をイメージし、

「ち」から、もの・こと・ひとが拓いていくという意味を込めました。



ex.



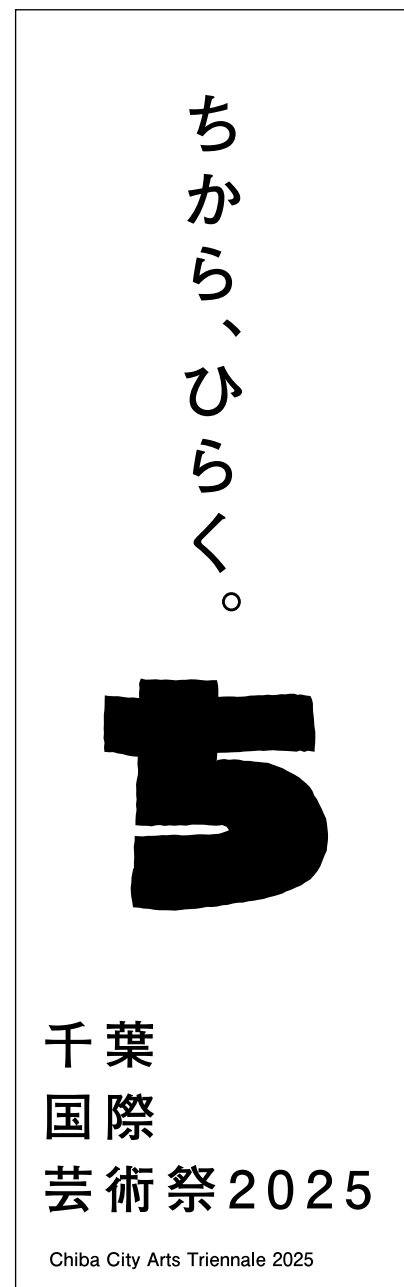
天馬船プロジェクト



笑顔

ロゴマークとコピーの文字組バリエーション

キャッチコピーを強く打ち出す場合、
また媒体の枠の形に応じて、
組み方を調整して表現する場合のイメージです。



展開イメージ

様々な色の組み合わせと「ち」の形を連続して露出させることで、
多様な「ち」の姿を表現していきます。



基本バージョン



連続的に複数のバナーを掲出できるといった場合に、多色バージョンを展開